

目 次

まえがき v

第8章 行為の非実現性・困難性と同等比較

—力動的 could を中心として— 1

1. はじめに 2
2. 先行研究 5
3. 行為の非実現性 6
4. 「非実現性・困難性の制約」 10
5. “x as ... as y” 構文の意味解釈 17
 - 5.1. “x as ... as y” 構文の構造 17
 - 5.2. “x as ... as y” 構文の意味 20
 - 5.3. いくつかの論拠 25
 - 5.3.1. 「付け足し」表現 25
 - 5.3.2. “x as ... as y” 構文と “identical” 構文の連結 27
 - 5.3.3. “x as ... as y” 構文における「非対称性」 28
 - 5.3.4. “x as ... as y” 構文の否定形 29
 - 5.3.5. “x as ... as y” 構文の疑問形 30
 - 5.3.6. 対話 31
 - 5.3.7. any と ever 32
 - 5.4. 結論 33
6. おわりに 34

第9章 自ずから発する知覚

—自発的 can を中心として— 37

1. はじめに 38
2. 英語における自発文 39
3. 日本語における自発文 44
4. 英語における自発性と完結性 47
 - 4.1. 継続的知覚と瞬間的知覚 47
 - 4.2. 継続性の条件 47
5. 英語における自発動詞の原則 52
6. 日本語における自発性と完結性 54
 - 6.1. 日本語における「自発動詞の原則」 54
 - 6.2. 日本語自発文における「瞬間性」, 「反復性」, 「状態性」 60
 - 6.2.1. 瞬間性 60
 - 6.2.2. 反復性 62
 - 6.2.3. 状態性 65
7. おわりに 66

第10章 心理的衝突

—感情的 should を中心として— 67

1. はじめに 68
2. 「心理的衝突の原則」と感情的モダリティの評価主体 72
3. 感情的 should と仮定法現在代用の should 76
4. 「感情表現の条件」 79
5. 「感情表現の条件」の問題点 80
 - 5.1. 感情表現が should を含む節と隣接していない場合 80
 - 5.2. 疑問詞を伴って should が主文に現れている場合 82
 - 5.3. 主節の内容が文字通りには感情表現とは言えない場合 83
 - 5.4. 感情表現が否定されているか、あるいはより冷静な内容の表現の場合 84

- 5.5. 主節の述語が感情的な述語ではない場合 86
- 5.6. 主節に感情表現が全く存在しない場合 89
- 5.7. 主節における表現の感情性の有無 90
- 6. 肯定・否定・疑問文脈における感情的「なんて」 92
- 7. おわりに 96

第11章 推論における二つのパタン

—断定と予測— 99

- 1. はじめに 100
- 2. 認識的な *must* と *should* のコンテキスト 106
 - 2.1. Lakoff (1972) 106
 - 2.2. Woisetschlaeger (1976) 108
 - 2.3. Rivière (1981) 110
- 3. 認識的条件文と認識的法助動詞 118
- 4. 三つの問題への解答 120
- 5. おわりに 127

第12章 状況の特定性 129

- 1. はじめに 130
- 2. 散在性の条件と推量の条件 132
- 3. 存在的 *can* の意味論的制約 140
 - 3.1. 述語に関する制約 140
 - 3.2. 主語に関する制約 141
- 4. 推量の内容としての特定の状況 141
- 5. 否定・疑問の文脈における存在的 *can* 143
- 6. おわりに 145

第13章 現実世界領域と言語行為領域の間	
—二つの need—	149
1. はじめに	150
2. 相互作用と「否認」の言語行為	151
2.1. 相互作用モデル	151
2.2. 相互作用から見た「否定」と「否認」	151
3. 本動詞の need と法助動詞の need	153
4. 本動詞の need と法助動詞の need の意味の違いに関する先行研究	157
4.1. 「客観的状況」対「言語行為」	157
4.2. 「現実性」対「想像不可能性」	159
5. 「現実世界の叙述」対「否認の言語行為」	162
6. おわりに	167
第14章 モダリティと現実性・仮想性	
—アガサ・クリスティの作品における	
「could/might/must+完了形」の事例の解釈—	171
1. はじめに	172
2. 仮想的条件文の中のモダリティ	172
2.1. はじめに	172
2.2. 二つの「可能性」	174
2.3. 仮想的条件文の帰結節におけるモダリティ	175
2.4. まとめ	177
3. 認識的な「could+完了形」	177
4. 多義的な「could+完了形」	185
5. 認識的な「must+完了形」	187
6. 否定的な「could+完了形」	190
7. おわりに	195

あとがき	199
参考文献	205
索引	215